令和 7 年度 第 1 回 学術研究プラットフォーム運営・連携本部会議 議事要旨

日　時：　令和 7 年 11 月 27 日（木）　15：00－16：45
場　所：　ハイブリッド開催（19 階会議室及び Web 会議システム）

議　事：

1. 前回議事要旨（案）の確認

　黒橋委員長より、資料 2 に基づき説明があり、内容に不明点等があれば今週中に事務局に連絡してほしい旨案内があった。

2. 学術研究プラットフォーム運営・連携本部等の規程改正について

　鷹野課長より、資料 3 に基づき説明があり、承認された。

3. 学術研究プラットフォーム整備推進委員会規程の制定について

　鷹野課長より、資料 4 に基づき説明があり、承認された。

4. 学術研究プラットフォーム自己評価について

　合田委員、谷藤委員、栗本委員より、資料 5 に基づき説明があり、それを受けて以下の意見交換が行われた。これらの意見を踏まえて調整の上、後日改めて資料及び評価シート様式を本部員へ送付し、評価シートの記入・提出を依頼することとなった。

- 進捗評価は、予定に対して計画通りかということが評価の仕方だと思うが、今回の説明はどういう計画に対してこのようにしたという説明ではないため評価がしにくいように思う。
  → p. 26 のスライド（年次計画の線表）の記載事項が進捗評価の軸になると考えてほしい。また自己評価の要約としてまとめたスライドに書かれている項目が、その進捗の評価の基準に対応している文章と考えていただきたい。

- 評価にあたりアピールしたいポイントがあれば教えてほしい。(
  → SINET については、400Gbps で 70 拠点を全国整備するというところ。特に、コロナ禍中で導入時に資材がないにもかかわらず、調整の結果、ネットワークとして無事スケジュール通りできたことと、日々ネットワーク装置のメンテナンスを行いネットワークを止めることなく安定的に運用できた点が最も大きく、十分以上に実現できたところだと考えている。さらに、加入機関からの要望を反映した新サービス（セキュリティ等）の提供を進めていることも強調したい。
  → 計画には書いていないがプラスで行えたことを明示的に書くと客観的に分かりやすいと思う。
  → 研究データ基盤の場合、特に注目すべき点は、GakuNin RDM の利用機関数と利用者数については、当初想定していた以上に伸び率が大きい。公開基盤も同様であるが、これら

は、自分のデータを管理することから自分のデータを公開することが繋がり、日本の研究データ基盤の整備が進んだということを表す数字の一端と捉えてよいと思う。加えて、研究ワークフローに沿った新たな 7 機能について、研究データを扱うということは非常に機微な状況、つまりクローズの中で研究が進むわけだが、その中で必要とされる解析基盤における秘匿計算のようなものは、地味ではあるが非常に重要なことであり、そういう環境が国の研究基盤として提供されているということは特筆すべきことだと思う。また、パブリッククラウドサービスがあるのだからいらないのではないかという主旨の意見を聞くこともあるが、そうではなく国としてこのような公的基盤が整備されているので秘匿計算もできる、あるいは必要であれば今後はデータの再利用のためにプロビナンス機能も提供されることで、安心・安全な研究環境に向かっていることは確実に言えるアピール点だと思う。さらに、これだけ学際研究が進んでいくので、国際標準の形式に合っていることも記載はないが特筆すべきことではないかと考えている。

→ 計画通り行ったこととプラス α で行ったことを整理して近日中に資料をお送りする。

- たとえば学認 LMS の利用状況で、この利用機関数が 150 まで伸びているのはひとつのアピールポイントだが、利用者数については 10 月現在の数字を挙げているが、それが妥当か。もう少し効果的にアピールする方法があればよいように思う。

  → 工夫していきたいと思う。

- 評価の観点に付された「中間的達成度」の意味等について評価シートの項目名の記載も含め整理が必要。

  → 整理して共有する。

- ネットワーク整備の話で、評価期間の前段階のネットワークの状況などもあると差分がわかってよい。また、基盤整備というのはトラブルがないように運用することが最も重要で、それができていれば高評価であるべきだと思うが、もし何もしないでいると数字が下がってしまう、他にユーザが流れていくという要因があるのであればそれもセットで示すとよいと思う。たとえば基盤性のところで、民間のクラウドなどにユーザが流れていきかねない競争の中で現状があるというようなことを示すとよいと思う。

  → 工夫して整理していきたい。

- 厳密に計算することはできないと思うが、進捗は大体何%と言えるのか。

  → 中間時点での目標についてはほぼできていると考えている。

  → 安定運用フェーズのもの、随時開発しているフェーズのものなど、色々なものがあるが、その辺りも含めて整理する。

- ネットワークの評価で 100 点というのは、きちんとネットワークを整理したということで、それを 110 点や 120 点にするには、たとえば 1.2Tbps 伝送フィールド実験への貢献の部分

や、新しいことに取り組んだ実績など、当初の計画に対してどうかという点もある。またRDCの方も研究データ管理基盤を整備することが100点で、それにコード付帯機能など新しい機能がプラス10点、20点になるといったような形か。評価の感覚を共有したい。

→ SINETについては400Gbpsができて当たり前というわけではなく、コロナ禍と半導体不足の中で工夫を凝らして予定通り実現したということもある。

→ そのような苦労、うまくいかない要因があったにもかかわらず、というような情報を示すとよいと思う。

- 留意事項5について、これは組織規模に対して大風呂敷を広げすぎていないかという留意事項だと思われるがいかがか。

→ その通りではあるが、AIやDXに求められる情報基盤の高度化をするにはまだまだ我々の組織は小さいと考えているが、そこでキャップをはめてあるべき事業範囲を考えるというよりは理想的な範囲を考えて実現することへ落とし込んでいきたい。加えて、可能であれば組織を広げながら、大学の先生方と協力しながら現実的なところを狙っていきたいという意図で説明した。

→ 大きい事業を維持するために、組織拡大の活動や連携の取り組みの強化など、対応していることを可能な範囲で具体的に教えてほしい。

→ デリケートなところもあるが、この回答の記述は半歩踏み込んだことを書いている。これをベースとして情報委員会の下にワーキンググループが立ち上がるので、今後のAI等も含めた環境整備を日本としてどうしていくのかを議論いただくことを期待している。

- SINET の運用状況についてリアルタイムに情報提供があると大学での障害の切り分けがしやすくなるので、将来に向けて検討していただきたい。

→ 実現できるように取り組みたい。

- 留意事項5は大変踏み込んだ回答だとは思うが、もっと強調しなければならない。こういったサービスが NII の組織規模のために制限されるのは日本の研究に対して非常にマイナスになるということを主張してほしい。海外の動向という意味でもネットワークのトラフィック増に応じてネットワーク帯域を増強していくのがトレンドであり、データ基盤に関しても諸外国で進んでいて日本は遅れている部分があると思うので、そういったことも強調していただきたい。

- 研究データ管理スタート支援事業で関東・近畿地区での活動がないのは理由があるのか、今後予定があるのか。

→ 関西に関してはAXIESで相談しようと思っている。関東は悩ましいところで、NIIがリーダーシップをとるのがよいのか、あるいは NII ではなくどこかの大学にリーダーシップをとってもらう方がスケールメリットを生かせるということもある。いずれにしてもAXIESで何か目途を立てたい。

→ 研究データ基盤は各大学にとって必須のものとなると思うが、将来的には SINET の接続数と同じくらいにすることを目標としているのか。

→ 国内での状況も変化しており、当初の目標を立てた時より急激に利用機関数が増えている。ターゲットをどのあたりに置くかは内部で議論しているところ。改めてアップデートした数字を共有したい。

5. 令和 7 年度 整備推進委員会報告

合田委員より、資料 6 に基づき令和 7 年度整備推進委員会について報告があり、学術情報基盤を支える人材共創プログラムの検討について委員から発表があったこと等に関する説明があった。

6. ネットワーク事業・運営委員会報告

栗本委員より、資料 7 に基づきネットワーク事業・運営委員会について報告があり、次期 SINET の検討状況等に関する説明があった。

7. DX・クラウド事業・運営委員会報告

竹房委員より、資料 8 に基づき DX・クラウド事業・運営委員会について報告があり、クラウド共同調達等に関する説明があった。

8. セキュリティ事業・運営委員会報告

南委員より、資料 9 に基づきセキュリティ事業・運営委員会について報告があり、NII-SOCS 事業における研修実施状況や運用状況等に関する説明があった。

9. 情報セキュリティポリシー推進事業・推進委員会報告

中村委員より、資料 10 に基づき情報セキュリティポリシー推進事業・推進委員会について報告があり、高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集や情報セキュリティ教育用教材等に関する説明があった。

10. 研究データ基盤運営委員会活動報告

谷藤委員より、資料 11 に基づき研究データ基盤運営委員会について報告があり、GakuNin RDM の受益者負担モデルの検討状況やゲストアカウントの試験提供等に関する説明があった。

11. 学術認証事業・運営委員会報告

佐藤委員より、資料 12 に基づき学術認証事業・運営委員会について報告があり、UPKI 電子証明書発行サービスの利用料金見直し等について説明があった。

12. 2024 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

鷹野課長より、資料 13 に基づき 2024 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動について報

告があり、オープンフォーラム、サービスキャラバン等の活動内容や参加人数等に関する説明があった。

13. その他

特になし。

以上